

おとしぶみ - ゆりかごをつくるちいさなむし -
岡島秀治・ぶん 吉谷昭憲・え 福音館書店



緑地は、散歩するだけで発見がいっぱいの場所。でも自然の本を見てから行くと、もっと違った視点で、新しい不思議を見出すことができるでしょう。

今回はそんな本の1冊を紹介します。『おとしぶみ - ゆりかごをつくるちいさなむし -』かがくのとも傑作集 岡島秀治・ぶん 吉谷昭憲・え 福音館書店 です。

週末、山歩きを楽しみました。山道には落ち葉がいっぱい。去年の秋に落ちてもう茶色くなった落ち葉、まだみどり青々として、葉の脇が丸く虫に食われている落ち葉、、そんな中に、緑色の筒状のものがばらばらと落ちていました。葉巻のように、しっかりと葉っぱを巻きこんだものです。一体誰がこんなことをしたんだろう？ そう思ったらぜひ、この絵本を開いてみてください。

ほんの数ミリの小さな虫が、葉をかじってやわらかくし、折りたたんで巻き込み、卵を産み付けて最後に葉脈をかじって落とすまでの様子が精細な絵で紹介されています。小さなオトシブミのおかあさんが、子どものために一生懸命つくったゆりかごだったのです。本当に卵があるのかな？私も1つをそっと開いてみました。でも、何もありません。がっかりして捨てようかと思った時、葉の一番先っぽに、透明な薄黄色の、点のような卵を発見しました！もう一度巻きなおそうとしたけれど、とてもおかあさんのように上手には巻けません。ごめんなさい・・・

西緑地では、ゆりかごを落とさないタイプのヒメクロオトシブミ(クヌギなど)とエゴツルクピオトシブミ(エゴなど)が見つかっています。巻物を落とさないの、下を見るのではなく、上を探してみてくださいね。西緑地のオトシブミについては「いきもの通信」の2005年5月号を、詳しい本紹介に関しては「本となかよし」(linkページ)を参照してください。

(なお、この本は絶版になっていますので、図書館で借りて読んでください)